

府立成城高等学校（定）
准校長 富田 公一

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個に応じた「確かな学力」の定着と、「豊かな心」をはぐくみ、将来を「生き抜く力」を身に付けさせることによって、地域や保護者から信頼される学校をめざす。

1. 地域や生徒の実情を踏まえた特色ある教育活動を展開し、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学習の確実な定着を図る。
2. 他人を思いやる心や自然や美への感性など「豊かな心」をはぐくみ、規範意識を身に付けた生徒を育てる。
3. 教職員が一丸となって『学校力』を高めあい、生徒に「生き抜く力」を身に付けさせる。

2 中期的目標

1 基礎的・基本的な学習の確実な定着に向けて

- (1) 個に応じた「確かな学力」の確実な定着を図る。
 - ア 生徒の学力に応じた教科科目の設定を行い、1年次生から卒業まで、計画的に基礎的・基本的な学習を身に付けさせる。
 - イ 生徒支援の視点から、生徒の学力、意欲、適性等を総合的に見極め、個に応じた「確かな学力」の定着を図る。
 - ウ 25年度生からの「3年卒業4年卒業選択制」を有効に機能させ、卒業率の向上を図る。
- (2) 生き生きとした活力ある授業をめざして
 - ア 教員としての全般的な力量を高める取組みを学校全体で実施する。
 - イ ICTを活用した魅力ある授業づくり26年度から進め、28年度までに定着させる。

2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒を育てる

- (1) 規律・規範のある学校生活を通して、豊かな心をはぐくむ取組みを推進する。
 - ア 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
 - イ 26年度策定の「規範意識を持たせるための教育プログラム」に基づき、系統的な教育活動を実践する。
 - ウ 生徒指導のユニバーサルデザイン化を研究・実践する。
- (2) キャリア教育、人権教育の推進
 - ア 27年度から3年計画で体系的な進路指導体制を構築し、卒業時の進路決定率100%（就職は就労率）をめざす。
 - イ 互いを認め合える人権教育を実施し、差別や偏見を許さない態度を育てる。

3 生徒支援を軸にした学校づくり

- (1) 生徒支援
 - ア 生徒支援カードを活用し、個々の生徒に応じた支援を組織的に実践する。
 - イ 教育相談活動の充実を図る。
 - ウ 上記の実践を通じて、中途退学や不登校の減少に取り組む。
- (2) 安全安心な学校づくり
 - ア 幅広い防災教育を研究し実践する。
 - イ 26年度から始まった大規模工事の中で、生徒の安全・安心に配慮した施設の点検や充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校全般について】 ・生徒の回答「成城高校に入ってよかった」89%、「学校行事は、楽しく行われている」82%等と学校生活に関する満足度は極めて高い。教員と生徒の信頼関係が強くてきている結果と推察される。本校の特色として継承していく。 ・生徒状況を考えると、一人ひとりの状況に適切に対応するためには、教員への期待・依存度が高く、肯定的結果は評価できるが、生徒間での人間関係を適切にするための取組みを計画的に行う必要がある。</p> <p>【生徒指導について】 ・「生徒指導は適切である」83%が肯定的な回答である。「相談できる先生がいる」73%と昨年比9pt 上昇したが、カウンセリングマインドを持った対応をさらに推進する。</p> <p>【進路指導について】 ・卒業後の進路希望が学校全体で「未定」32%と高くなっている。未定の生徒の個別の状況を分析し系統的なキャリア教育の取組みの実施が必要。</p> <p>【保護者からの回答】 ・「学校への満足度」は全項目で90%以上と極めて高く評価できる。回収率が23%と低いので懇談等を利用するなど改善を図る必要がある。</p> <p>【教員の回答及び学校運営について】 ・全ての項目で90%程度の肯定的な評価となっているが、課題となっている進路保障のために教員の参画をすすめて進路指導体制を構築する。</p>	<p>第1回（6/29） ○学校経営計画について意見交換と協議 ・学校のきめ細かな取組みは評価できるので、継続して欲しい。 ・食堂の喫食数の目標設定の達成は難しいだろうが食育指導は必要。 ・定時制の実情や良さを発信するなど保護者や中学への情報提供が必要。</p> <p>○学校の概要の説明、授業見学 ・生徒は落ち着いて学習していた。先生と生徒との良好な関係が観察できた。</p> <p>第2回（11/12） ○これまでの学校生活について報告と意見交換、協議 ・あいさつ運動等の生活指導での成果が出ている。携帯電話依存の指導が必要。 ○授業アンケートの結果について ・先生はよく頑張っている。今後は、ICT活用など授業改善を継続して取り組む。</p> <p>○文化祭見学、学校教育自己診断（案）について意見交換</p> <p>第3回（2/15） ○平成27年度学校経営計画及び評価（案）及び学校教育自己診断の結果 ・学校の取組みは良い。活動の成果等を中学校、地元への発信を検討するとよい。 ・保護者からの回答数は少ないが、先生方の指導にとても感謝されている。</p> <p>○平成28年度学校経営計画及び評価（案） ・社会人として求められていることを教育活動に組み入れることを研究する。 ・自己肯定感の低い生徒が多いので、対応する取組みをする。</p>

府立成城高等学校（定）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎的・基本的な学習の確実な定着	(1) 個に応じた学力の定着 ア 基本科目の検証、改善 イ 1年次生に興味関心を持たせる授業の研究 (2) 生徒のやる気高め、活力ある授業づくりの推進 ア 教員力の向上 イ 授業のICT化	(1) ア 学力診断テストを実施し、過去との比較検証から、国語・数学の学習指導を改善する。 イ 学校における学習になじめていない生徒を授業に参加させる教材、授業方法を研究し実践する。 (2) ア 教員としてのトータルな力量向上のため大学教授等を招いての研究授業を実施する。また、自主研修やレポート作成を実施する。 イ すべての教科がICTを活用した授業指導案を作成し実践する。	(1) ア 学力診断テスト報告会の実施。国語、数学の授業アンケート肯定率H26年度78%から80%以上に。 イ 1年次生の講座で教材や指導方法を作成する。 (2) ア 研修回数2回以上。レポート提出率80%以上。自己診断での授業満足度80%以上維持。(H26年度91%) 公開研究授業週間年2回 イ ICTを活用した授業指導案の作成	(1) ア 報告会実施(5/29)。指導の改善を図る取組みを実施した。学力定着を調べるために、個別・継続の観点での学力把握を次年度から実施する。(○) 授業アンケートの肯定率は84%。(◎) イ 「産業社会と人間」の時間を活用し、学びなおし学習(漢字、計算)のプリントによる学習を6時間実施した。次年度に継続し発展させる。(○) (2) ア 大学教授等を招いての研究授業を2回実施。レポートの提出は86%。授業満足度は87%。(◎) 公開研究授業週間は年2回実施した。教員相互での授業振り返りシートの提出率100%で授業力向上の意見交換が行えた。(◎) イ 普通教室での電子黒板、タブレット型PCを活用した授業の取組みなど全教科で活用した。ICT活用研修と報告会を実施した。(◎)
2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒の育成	(1) 学校生活の充実 ア 生徒会活動の充実と地域貢献 イ 規範意識の醸成 ウ 生徒指導法の工夫 (2) キャリア教育、人権教育の推進 ア 進路指導体制の構築 イ 互いを認め合える人権教育	(1) ア 体育祭、文化祭を生徒会中心に盛り上げ、地域参加も促す。地域清掃を2回実施する。また、あいさつ運動を、年間3回計3週間実施する。 イ 「規範意識を持たせるためのLHR」実施し、意識の向上を図る。 ウ 生徒指導のユニバーサルデザイン化を研究し実践する。また、生徒通信を発行するとともに学級通信等も含めHPに掲載する。懲戒事案の減少に努力する。 (2) ア 体系的な進路指導体制を構築し、27年度入学生から逐次実施する。その一方で、就労を促進し全校就労率の向上をめざす。 イ 本校生に有効な人権HRを2回実施する。	(1) ア 自己診断による生徒の満足度80%以上維持。(H26年度86%) 地域清掃、あいさつ運動の実施回数。 イ HR実施時間H26年度13時間から15時間以上に。 ウ 教員の自己診断肯定率70%以上。生徒通信等HP掲載年間10回以上。 停学者H26年度8人から10%減。 (2) ア 新進路指導計画の策定。H24年度から49%、68%、70%としてきた就労率を72%以上に。 イ 生徒及び教職員の自己診断肯定率80%以上維持。(H26年度生徒84%、教員83%)	(1) ア 満足度は82%。地域清掃は1回(台風で1回中止)、あいさつ運動は3回3週間実施した。文化祭は学校協議委員に見学いただき、生徒の展示や活動等が充実していると評価をいただいた。(○) イ HRの取組みは16時間であった。次年度から生徒の満足度を測定する。(○) ウ 教員の肯定率は94%であった。職員研修も3回実施し、工夫改善に努めた。(◎) 通信を10回発行し、HPに掲載している。(○) 懲戒生徒は5人と約4割減であった。(◎) (2) ア 新進路指導計画案を策定したので、次年度から計画的に実施する。就労率は71%であった。(○) イ 人権HRの評価は、生徒81%、教員94%が肯定的な感想を持つ高い評価になった。今後も継続して実施していく。(◎)
3 生徒支援を軸にした学校づくり	(1) 生徒支援 ア 個別の生徒支援の取組みの充実 イ 教育相談活動 ウ 不登校及び退学者の減少 エ 給食喫食率の向上 (2) 安全安心な学校づくり ア 防災教育 イ 工事対応	(1) ア 本校独自の生徒支援カードを9月までに完成させる一方、年間3回学校全体でのケース会議を開催する。 イ 保健室を活用した「居場所づくり」の体制を整備し実践する。 ウ 不登校の生徒に対し、学校全体の取り組みで支援する。特に高校生活になじめない新入生対策に重点を置く。 エ 給食喫食者を増やす。 (2) ア 「生命を守る」防災HRの実施。 イ 大規模工事の中で、教員と行政が連携し生徒の安全確保を図る。	(1) ア ケース会議の実施回数と教職員向け自己診断肯定率80%以上。 イ 自己診断での生徒肯定率H26年度64%から70%以上に。 ウ H27年度入学生登校率65%以上。退学者数15%減 エ 喫食者をH26年度7名から10名以上に。 (2) ア 生徒の自己診断での肯定率80%以上。 イ 本館とプレハブ棟の動線の具体的安全対策。	(1) ア ケース会議を年3回実施。94%の高い肯定率であった。この取組みを継続して実施する。(◎) イ 保健室にカラフルな椅子を置き、居場所づくりとしての機能を持たせた。生徒は73%の肯定率であった。(○) ウ 新入生登校率は80%と極めて高い。退学者も70%減と目標を大きく上回った。(◎) エ 利用生徒は最大で5人であった。定期的な指導や広報を行ったが増やすことはできなかった。(△) (2) ア 87%であった。防災HRでは、避難、消火活動、非常食利用などを行った。(○) イ 生徒や教員の声を拾い、照明設置、突起物除去などの安全対策を実施した。(◎)